

平成30年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる  
「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

平成 年 月 日現在

研究課題名	体制転換後のロシアとベラルーシにおける子どもの生活と権利に関する比較研究	
申請者	氏名	所属機関・職
	村知 稔三	青山学院女子短大子ども学科・教授

## 研究成果の概要

【申請内容】旧ソ連は、1989年に国連総会で採択された子どもの権利条約を翌年8月に批准し、9月に国際条約として発効させた。本研究では、体制転換後のロシアとベラルーシにおける子どもの生活の実態と権利保障上の課題を比較研究する。その具体的課題は、1)体制転換後の両国で新しい子ども政策はどのように実現されているか、2)子ども政策に子どもの権利条約の普遍原理がどこまで取り込まれているか、3)その原理の実現条件としての子どもの生活実態はどのようなものか、という点の解明である。本課題の一方の対象国ロシアについては、2017年度の研究「現代ロシアにおける子どもの権利擁護の実態と課題」などを通してすでに着手している。他方の国ベラルーシについては予備的作業を始めているものの、本格的な考察は2018年度以降に残されている。その第一歩として、貴学図書館(室)に所蔵されている、両国の国家統計委員会による全国・地域統計書などの分析にとりくむつもりである。

【利用内容】申請者は2018年8月と2019年3月にスラブ・ユーラシア研究センター図書室と北海道大学附属図書館などを利用した。その間に、現代ロシアとベラルーシの子どもの権利の実態とその保障の動向などを示す資料・文献を閲覧した(『19世紀末～21世紀初頭のロシアの子ども——歴史人口学的概観』など)。また、2018年8月には下記論文①の草稿を作成し、それにもとづいた研究発表を9月の世界子ども学研究会第22回研究例会で行なったうえ、12月に論文①とした。2019年3月には下記論文②の草稿を準備し、それにもとづいた研究発表を同月の世界子ども学研究会第23回研究例会で行ない、同研究会の会誌に論文②として掲載した。

## 主な発表論文等(雑誌論文、学会発表、図書等)★ともに単著、副題は略

①拙稿「ベラルーシ子ども学研究序説」(2)『青山学院女子短期大学紀要』第72集(2018年)67～83ページ。

②拙稿「ベラルーシ子ども学研究序説」(3)『ハルシオン』第7号(2019年)61～74ページ。

## 当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト(科研費等)

基盤研究(B)「グローバル化時代の子ども観の質的転換と子どもの権利保障政策に関する比較社会史研究」(研究分担者)

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。